

# 平成26年度

「教育委員会の点検・評価」報告書  
(平成25年度事務事業対象)

平成26年8月  
那須町教育委員会

## はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」（H20.4.1）の施行を受け、教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行ない、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することといたしました。

町教育委員会では、第6次那須町振興計画「ハートフル那須プラン」を策定し、このビジョンをもとに様々な施策を展開しております。

本報告書は、「ハートフル那須プラン」に基づき、平成25年度の主要事業や新規事業、教育委員会の開催状況等について、点検・評価を行い、その結果を総括的にまとめたものです。また、その間、教育委員会の点検・評価委員会を開催し、学識を有する方々からご意見をいただきました。

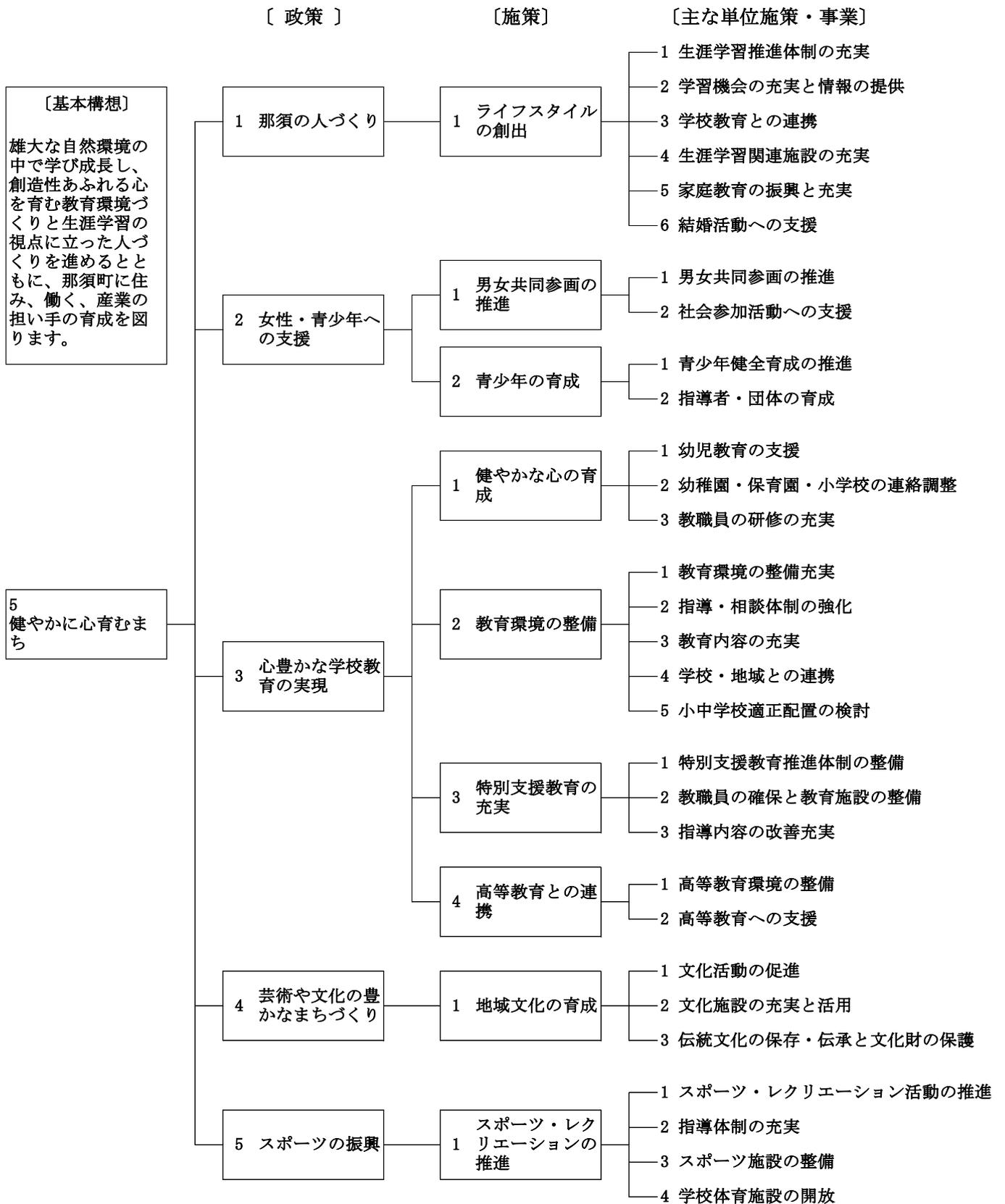
町教育委員会といたしましては、この点検・評価を次年度への改善に生かすことにより、那須の子どもたちが、より一層、自らが判断し行動できる力を身に付け、社会的に真に自立し、明日の社会をしっかりと担える人づくりを進めるとともに、「夢・感動あふれる人づくり」を教育ビジョンとして掲げ、知・徳・体・コミュニケーションの4本柱を基本に、バランスのとれた児童生徒の育成に力を入れ、各施策に取り組んでまいります。

町民の皆様には、本町の教育・文化・スポーツの充実・発展のため、今後ともご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年8月

那須町教育委員会

『ハートフル那須プラン（町振興計画・後期）』 施策の体系



平成26年度 教育委員会点検・評価対象事務事業一覧 (25年度実施事業)

No.	対 象 事 務 事 業	振興計画との関係	課 名	備 考
1	教育委員会の活動状況について			4 頁
2	4 公民館共催事業	学習機会の充実と情報の提供	生涯学習課	5 頁
3	家庭教育支援事業	家庭教育の振興と充実	生涯学習課	6 頁
4	那須町子どもフェスティバル支援事業	青少年健全育成の推進	生涯学習課	7 頁
5	幼稚園就園支援事業	幼児教育の支援	学校教育課	8 頁
6	耐震補強等推進事業	教育環境の整備充実	学校教育課	9 頁
7	教育指導・相談体制推進事業	指導・相談体制の強化	学校教育課	10 頁
8	国際理解教育推進事業	教育内容の充実	学校教育課	11 頁
9	学力向上の推進	教育内容の充実	学校教育課	12 頁
10	小中学校適正配置事業	小中学校適正配置の検討	学校教育課	13 頁
11	小中学校教育活動支援事業	特別支援教育推進体制の整備	学校教育課	14 頁
12	奨学生事業	高等教育への支援	学校教育課	15 頁
13	町伝統芸能継承支援事業・文化財管理事業	伝統文化の保存・伝承と文化財の保護	生涯学習課	16 頁
14	那須高原マラソン大会支援事業	スポーツ・レクリエーション活動の推進	生涯学習課	17 頁
15	那須町レクリエーション大会	スポーツ・レクリエーション活動の推進	生涯学習課	18 頁
16	総合運動公園基本構想策定	スポーツ施設の整備	生涯学習課	19 頁

## I 本町における「教育委員会の点検・評価」

### 1 目的

教育委員会が立てた基本方針に沿って具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが点検・評価を行なうことにより、効果的な教育行政をより一層推進するとともに、町民への説明責任を果たしていくことを目的とします。

### 2 点検・評価の対象

本町の教育行政は、平成23年度から27年度までの5カ年計画である「ハートフル那須プラン」後期計画をもとに推進しており、教育委員会の点検・評価は、各種施策において、平成25年度の主要事業や新規事業、主な推進指標の進捗状況等を対象に実施します。

### 3 点検・評価結果の構成

#### ○目標

ビジョンの施策体系ごとに、目標を掲げています。

#### ○主な施策

目標を達成するため主要事業や新規事業について、その目的や実施状況を記載しています。

#### ○成果及び課題

平成25年度の主な施策、推進指標の達成状況等について、成果・課題を記載しています。

#### ○点検・評価委員からの主な意見

点検・評価委員からいただいた主な意見を記載しています。

#### ○今後の対応・方向性

点検及び評価を踏まえ、目標の達成に向けた今後の対応方向を示しています。

### 4 委員会（会議）の設置

点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する者から意見を聴取する委員会を設置しました。

委員会の委員は、次のとおりであります。

氏名	役職
常盤 隆	元那須公民館長（生涯学習）
中島 慶子	元大島小学校教頭（学校教育）

### 5 議会への報告

平成26年9月までに議会に報告します。

また、報告書は那須町のホームページにて公表します。

## II 教育委員会の活動状況について

### 1 教育委員会議等の運営及び開催状況等

教育委員会は、原則として年6回の定例会、また、必要に応じて臨時に開催しています。平成25年度の開催状況は、次のとおりであります。

#### 【会議の開催状況】

- 定例会 …………… 6回
- 臨時会 …………… 0回

### 2 教育委員会議の内容

教育委員会は原則公開になりますが、人事に関する議案を審議する場合等では、出席委員の3分の2以上の多数をもって、非公開の会議とする場合があります。

定例会及び臨時会で審議された内容別の件数は、次のとおりであります。

#### 【付議内容及び件数】

- 教育行政の運営に関する基本方針に関すること …………… 7件
  - 人事・サービスに関すること …………… 4件
  - 規則等の制定、改廃に関すること …………… 16件
  - 学校教育に関すること …………… 1件
  - その他 …………… 1件
- △審議案件のほか、報告事案30件についても取り扱いました。

### 3 教育委員会議以外の活動状況

教育委員は、教育委員会議以外の活動として、施策の勉強や研修会への参加、学校訪問などを実施しています。

- 研修会等参加 …………… 5月13日 於：那須町役場 いじめ、体罰・子ども会  
7月8日 於：福島県視察研修  
10月17日 於：那須町役場 町長との懇談会  
11月6日 於：宇都宮市 県教育委員会研修会  
11月28日 於：東陽中学校 那須町の教育を語る会  
12月17日 於：那須町役場 民政文教常任委員との懇談会
- 学校訪問 …………… 6月18日、6月25日：4小学校：新任校長との意見交換
- 教育連合会等関係機関会議 …………… 3回
- 各種行事 …………… 12回 : 小中学校卒業式、教職員の辞令交付式等、成人式  
生涯学習フォーラム、中学生模擬議会ほか

### 4 教育委員一覧

(平成26年8月1日現在)

職名	氏名	委員任期
委員長	柄沢 敏一	平成22年10月1日～平成26年9月30日
委員長職務代理者	大森源一郎	平成24年10月1日～平成28年9月30日
委員	鈴木 尚哉	平成24年10月1日～平成28年9月30日
委員	米倉 万美	平成23年3月25日～平成27年9月30日
委員(教育長)	平久井好一	平成22年6月10日～平成29年9月30日

### Ⅲ 教育に関する事務の執行の点検及び評価

#### 第1節 那須の人づくり

##### 1 ライフスタイルの創出

###### 目 標

「町づくり・人づくり」の目標に向けて、町民の多様な学習ニーズに応え生涯にわたり「いつでも、どこでも、だれでも」学習でき、学んだことを地域活動に活用できるよう、学習活動の支援や指導者の育成に努めます。また、生涯学習関連施設では学習活動の成果を発揮できる機会・場の提供を行うとともに、学習活動の拠点として利用促進に努めます。

主な施策名	学習機会の充実と情報の提供
事務事業名	4 公民館共催事業
目 的	少子高齢化・情報化・健康その他多岐にわたるテーマの学習機会と情報の提供を通して人づくり・生きがいづくりを進める。
実施状況	1 『自然観察教室』回数：4回 参加者数：113人 2 『那須を学ぶ』回数：4回 参加者数：86人 3 『那須の子ども塾』回数：2回 参加者数：28人 4 『那須町の戊辰戦争』回数：4回 参加者数：30人
成果及び課題	4館が連携することにより、それぞれの館が持つノウハウを活かし、町内のすばらしい資源を活用した内容で実施することができた。また、事前準備から、複数のスタッフで対応することができた。
	地域に根ざした内容を実施することで、地域をより深く知ることができるとともに指導者の育成や地域の連携にもつながっている。
	課題：事業内容によっては移動できる範囲に限られるため、移動手段も考慮する必要がある。
点検・評価委員からの主な意見	多くの参加者がある良い事業であり、指導者の育成や地域の連携に効果が出ている。
	移動手段は乗り合わせ等よく検討してほしい。4公民館共催ということでスタッフが多いので連携を密にして実施してほしい。
	幅広い年齢層の取り込みと那須町のもっと広い分野での内容の充実をしてほしい。
今後の方針	那須町の魅力や歴史を発信し、また、案内ボランティア等の活用を進めることにより、指導者の育成や郷土愛の醸成、生きがいづくりや仲間づくりにつなげる。
	幅広い年齢層の取り込みやもっと広い分野での情報の発信のため、4公民館の連携を密にし、多様な学習機会と情報を提供する
	参加者が参加しやすく負担があまりかからない移動方法を検討する。

主な施策名	家庭教育の振興と充実
事務事業名	家庭教育支援事業
目的	子育て環境の急激な変化等により、不安を抱える親を支援し、子育てについて学ぶ機会を提供する。
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 親学習プログラム出前講座</li> <li>1 小・中学校 7校 11回 参加者数：266人</li> <li>2 保育園 1園 1回 参加者数：36人</li> <li>3 全就学時健康診断 8回 184人</li> <li>4 4ヶ月検診 8回 120人</li> </ul>
成果及び課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参加者が、「親学習プログラム」を通して、他の人とのコミュニケーションを深め、さまざまな意見交換の中で、自分をふりかえり、何かに気づいた姿がたくさん見られた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 就学時健康診断では、那須町の社会教育主事有資格教員との連携が図られ、家庭教育オピニオンリーダー「かおり会」の負担が少し軽減できた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題：例年実施している学校が限られていることや中学校での利用がない。また、今後は、支援が必要と思われる若い保護者のいる保育園、幼稚園での親学習プログラム出前講座のいっそうの活用を図っていきたい。</li> </ul>
点検・評価委員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 以前は、家庭教育学級というものが各学校にあり親同士の交流の機会があった。親学習プログラムはそれに変わるものと期待される。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭教育オピニオンリーダーや社会教育主事有資格教員との連携は、とてもよいこと。これからも連携を密にして実施して欲しい。</li> </ul>
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後も幼稚園や保育園、小学校での家庭教育支援は最重要課題として取り組んでいくが、更に中学生の保護者を対象とした家庭教育支援にも取り組んでいきたい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎年、親学習プログラムを実施している学校もあり、プログラムのマンネリ化も見られるため、他市町や教育事務所等とも連携し、新たなプログラムの開発をしていく。</li> </ul>

## 目 標

青少年を取り巻く社会環境は、少子化、情報化、国際化、消費社会化が進行し、更に学校教育制度の変化、就労形態の多様化や職業意識に変化が生じていることから、青少年の健全育成を進めるため、家庭、学校、職場、地域が一体となった取り組みを推進するとともに、将来の町の担い手となる青少年の指導者を養成します。

主な施策名	青少年健全育成の推進	
事務事業名	那須町子どもフェスティバル支援事業	
目 的	那須の豊かな自然の中で、子どもたちが様々な活動をすることで子どもたちの自主性や協調性を養うと友に体験をとおして情緒豊かな子どもの健全育成を図る。	
実施状況	1 期日・会場 平成25年8月4日（日）・黒田原小学校校庭 2 参加者 約3000人 3 ステージ発表 8団体 出店団体 32団体 4 子どもスタッフ 56名	
成果及び課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの自主性、自由な発想を尊重し、大人がそれをサポートしながら計画から連携しながら実施できた。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>見るだけではなく、発表や様々な体験をとおして子どもたちにとって有意義なものとなった。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>課題：今後、子ども実行委員として、中学生や高校生、大学生のスタッフを増やし、子どものためのイベントとして運営できるようにしていきたい。</li> </ul>
点検・評価委員からの主な意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>青少年を取り巻く環境がますます厳しくなる時代、世代を超えた活動が見られ、大変素晴らしい事業である。今後も是非続けて欲しい。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもスタッフ(小・中・高校生)が活躍しているが、更に高校生や大学生が実行委員としてどうかかわれるかを検討して欲しい。</li> </ul>
今後の方針		<ul style="list-style-type: none"> <li>ジュニアリーダークラブを中心に更に子どもたちの意見が反映されるよう子どもフェスティバル実行委員との連絡・調整を密にしていく。また、ジュニアリーダーOBの大学生を実行委員に取込めるよう検討する。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもフェスティバルがより子ども中心の活動となるよう子ども会育成会の参加を呼びかけていく。</li> </ul>

## 目 標

少子化における子育てが、より充実した教育環境の中で行えるよう支援するとともに、幼児がのびのびと健やかに成長できるような、幼児教育の整備を推進します。

主な施策名	幼児教育の支援
事務事業名	幼稚園就園支援事業
目 的	幼児教育の環境を整え、私立幼稚園との相互連携を図る。また、保護者の負担する保育料の一部を助成し、保護者の負担軽減を図る。
実施状況	1 幼稚園就園奨励費事業（161人 15,689,500円）第2子保育料減免事業（4人 423,500円） 補助基準により定められた範囲内で100%補助することができ、安心して子供を生み育てることが出来る子育て環境の支援事業として実施した。 2 私立幼稚園特別支援サポート事業（みふじ幼稚園1人：那須幼稚園3人） 心身に障がいをもつ幼児を就園させ、特別な教育のための教職員の配置に対し補助した。（園児1人について392,000円）
成果及び課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業内容については、町広報や幼稚園ハンドブック等で広く周知できた。また、国の基準に該当しない家庭には、町独自の助成を行えた。</li> <li>障がい児に対する特別支援については、24年度からの事業であるが、今後その重要性は益々高まってくると考えられることから、継続して支援していく必要がある。</li> </ul>
点検・評価委員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>夫婦共働きの世帯は多い。少しでも保護者への負担軽減を図るため、今後もぜひ継続すべき事業である。</li> <li>少しでも少子化を食い止めるために、いろいろな制度で、子育て環境の改善を進める必要がある。</li> <li>子どもを持つ多くの家庭に、この補助事業が伝わるよう、今後も広く周知していくべきである。</li> </ul>
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>所得により国庫補助対象外の家庭もあるので、それらの家庭には今後も町独自の補助を継続する。</li> <li>私立幼稚園特別支援サポート事業は今後も継続し、子育て支援の充実を図る。</li> <li>子どもを持つ多くの世帯に、補助事業の内容が伝わるよう、今後も制度の周知を図る。</li> </ul>

## 目 標

人間尊重の教育を基礎に、次代を担う人材として心身ともに健やかで実践力のある児童生徒の育成を目指す中で、児童生徒の指導体制、教育内容の充実に努めます。

また、児童生徒が集団生活を通し切磋琢磨しながら自主性、社会性を培うため、一定規模の集団を確保する学校適正配置を推進します。

なお、校舎等の耐震化を進め、安全・安心な教育環境を整えます。

主な施策名	教育環境の整備充実
事務事業名	耐震補強等推進事業
目 的	児童生徒にとって、より良い教育環境を構築するため、小中学校の耐震補強工事を進め、安全・安心な学校づくりに努める。
実施状況	<p>Is値0.7未満の校舎・体育館等の施設の耐震化を実施している。          小学校13校29棟、中学校4校15棟（H25末小学校10校21棟、中学校4校15棟）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 H23 小学校24棟完了、中学校 9棟完了、耐震化率75.0%</li> <li>2 H24 小学校24棟完了、中学校11棟完了、耐震化率79.5%</li> <li>3 H25 小学校17棟完了、中学校12棟完了、耐震化率80.6%</li> </ol>
成果及び課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在、町の適正配置計画を進めているが、今後閉校になる学校校舎等の耐震化について、跡地利用や財政問題も含め課題が残っている。</li> <li>・ 校舎及び体育館等の耐震化については、計画的に進めているところであるが、今後は体育館等の広いスペースを有する施設の天井、照明器具及びバスケットゴール等の落下防止策を講じなければならない。</li> </ul>
点検・評価委員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 財政の無駄が出ないように、よく検討して計画的に進めてほしい。</li> <li>・ 耐震性の問題が無く、閉校になる学校施設については、地域活性化の問題もあるので、地域の拠点施設として利活用についても同時に検討していくべきである。</li> <li>・ 財政上の問題から、優先順位もあると思うが、照明器具等の落下防止についても対策を検討していくべきである。</li> </ul>
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 耐震性が不足している施設については、今後も計画的に耐震補強工事を進める。</li> <li>・ 校舎等の改修とあわせ、今後は非構造部材（照明器具及びバスケットゴール等）の点検について、調査を進め落下防止策を講じる。</li> </ul>

主な施策名	指導・相談体制の強化
事務事業名	教育指導・相談体制推進事業
目的	学校に通うことができない児童生徒を対象に、保護者の理解を得ながら適正な就学指導を図り、学校への復帰支援を行なう。また教育相談の必要な保護者・教員への支援を行う。
実施状況	<p>学校に通うことの出来ない児童生徒に対し、原籍校への復帰を図っている。また教育相談を受けた保護者・教員の不安解消に努めている。</p> <p>1 平成25年度の相談の状況  ①電話相談814件 ②家庭訪問99件 ③来室相談548件 ④学校訪問104件</p> <p>2 通室人数 小学生0名 中学生4名  3 復帰人数 小学生0名 中学生2名</p>
成果及び課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校及び学校不適応傾向にある児童生徒の自立を促し、スクールカウンセラー及び心の教室相談員を活用し、学校生活への適応を図るための指導援助を行った。しかし、不登校の長引く児童生徒への対応が課題である。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療機関との連携等、学校とのつながりをより深く持つ必要がでてきている。</li> </ul>
点検・評価委員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談室での環境はとても良く、保護者も安心して預けている様子が伺える。また、復帰や卒業の状況を見ると、効果的な対応がされていると感じる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒との関わりは、担任などの早期対応が重要であるが、それらにおいても学校と連携を図りながら支援をして欲しい。</li> </ul>
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校と保護者、関係機関との連携を図りながら、個々の状況に応じた支援体制を図る。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>心の相談員・スクールカウンセラーとの連携を取りながら、支援の充実を図る。</li> </ul>

主な施策名	教育内容の充実
事務事業名	国際理解教育推進事業
目的	小中学校に英語指導助手を配置し、児童・生徒の英語語学能力の向上を図る。また、中学生の海外派遣を通し、英語圏の青少年との交流及びホームステイの体験を行い、国際理解と町の将来を担う人材育成を推進する。
実施状況	<ol style="list-style-type: none"> <li>英語指導助手等配置 英語指導助手5名（うち2名はネイティブ）により外国語（英語）能力及び国際理解教育を推進するための授業を実施している。 （小学校 延べ565日 中学校 延べ402日）</li> <li>那須町中学生海外派遣事業 オーストラリア ケアンズ市（H25. 11. 16～H25. 11. 23） 中学生16名 事前研修7回、事後研修4回（うち1回：小学校において活動報告を実施）</li> </ol>
成果及び課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中学校の連携を一層深めるために、研究授業を小・中学校でそれぞれ1回ずつ実施した。小・中学校をつなげるにあたり、成果と課題を相互に共有することができた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外派遣事業は、24年度から、事前研修及び事後研修を以前より4回増やすことにより、より事業内容を充実させることができている。また、同じく24年度から小学校での発表を行い、派遣団員たちは、より自信を持つことができているので継続していきたい。</li> </ul>
点検・評価委員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童・生徒の英語能力向上のため、今後とも指導助手の適正な人数と質を確保してほしい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外派遣については、国際理解に必要であり、同時に自国文化について学ぶ機会にもなるので継続して欲しい。</li> </ul>
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導助手の人材確保に努め、英語教育において、指導助手間の連携協議により学力向上を図る。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外派遣事業については、リーダー作りのためにも事前事後研修を充実させる。また、体験したものを広く他の生徒に伝えられる工夫をする。また、自国文化についても、郷土学習を推進する。</li> </ul>

主な施策名	教育内容の充実
事務事業名	学力向上の推進
目的	那須町小中学生の学力向上を図るために、学習の基礎、基本を身につけ、夢に向かって生き生きと生活できる子どもの育成を目指す。
実施状況	那須町学力向上推進委員会の開催 1 開催数：2回 2 委員数：男性7名、女性3名 3 リーフレットの作成
成果及び課題	平成25年度の結果からは、中学校では、国語・数学のA領域においてはほぼ全国と同程度となってきた。B領域においては、国語・数学とも全国に比べてやや低い傾向が見られる。
	小学校においても、算数のA領域が全国と同程度になってきている。B領域においては、国語・算数とも全国に比べてやや低い傾向が見られる。
	平成19年度の調査からは、自尊感情や自己肯定感の低さが課題として挙げられたが、学校でのキャリア教育の充実や家庭でのコミュニケーション推進などの取組・啓発の結果、小・中ともにそれらの意識が向上してきている。
点検・評価委員からの主な意見	調査結果により全国との比較ができて良い。また、学力向上推進委員会という組織の存在が素晴らしいことなので、継続して開催してほしいとともに、伸ばすべきポイントを見つけて学力向上を推進してほしい。
	委員会の開催回数が、今回は少ないと思われる。
今後の方針	学力向上推進委員会の活動を生かし、学校・家庭・地域が一体となったキャリア教育を推進し、将来に夢や希望を持てる子供の育成に努める。
	全国学力・学習状況調査の結果を活用し、伸ばすべきポイントの学習指導に力を入れ、学力向上を推進する。

主な施策名	小中学校適正配置計画の検討
事務事業名	小中学校適正配置事業
目的	子どもたちにとってより良い教育環境を構築するため、那須町学校適正配置等計画を推進する。
実施状況	<p>小中学校校区ごとに適正配置計画の住民説明会等を開催した。更に合意形成が図られた学校区においては適正配置準備委員会が組織された。</p> <p>1 適正配置計画住民説明会 10会場 415名  2 地域、保護者との懇談会等 8回 131名  3 適正配置準備委員会 26回</p>
成果及び課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中学校区での適正配置住民説明会が計画どおり実施できた。また、地域、保護者を対象とした懇談会等も実施できた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>合意形成が図られた学校区から適正配置準備委員会が組織され、新しい学校づくりのための協議・検討が進められた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域、保護者の理解が得られていない学校区があり、引き続き十分な理解を得る必要がある。</li> </ul>
点検・評価委員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>閉校となった学校区において、地域の活性化を図る上でも、学校跡地の有効活用を十分に考えてほしい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>合意が得られていない地域について、理解を得ることは大変かと思うが、計画どおり進めてほしい。</li> </ul>
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校跡地の利活用については、学校跡地利用検討委員会及び幹事会において協議検討を行っているが、地域の意向、ニーズについては十分配慮した利活用を検討していく。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>合意形成に至っていない地域については、地域関係者との調整を図り統合時期を検討する。</li> </ul>

## 目 標

特別支援の必要のある児童生徒が、将来、社会人として自立できるよう、学校内で支援体制の充実を図るとともに、施設及び教材備品など教育環境の改善を図ります。

主な施策名	特別支援教育推進体制の整備
事務事業名	小中学校教育活動支援事業
目 的	<p>複式学級児童が、指導助手の配置により、国語・算数等の授業を単式学級と同じように受けられる。</p> <p>特別支援学級の開設により、児童・生徒が個々に合った適切な指導を受けられる。</p> <p>特別支援指導助手の配置により、各授業において専門的な指導を受けられる。</p>
実施状況	<p>複式学級の児童や特別支援が必要な児童生徒に対する支援を行う指導助手を配置している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 複式対象学級 8学級</li> <li>2 複式解消指導助手 7名</li> <li>3 特別支援対象学級数 17学級</li> <li>4 学習支援・特別支援指導助手 35名</li> </ol>
成果及び課題	<p>支援を必要とする児童生徒に対し、特別支援教育コーディネーターと連携し、巡回相談などを行った。今後は更に、困難な事例に対する対応や、保護者、関係機関との連携が求められる。</p>
点検・評価委員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習支援・特別支援指導助手が昨年より2名増えているのは、支援が必要な児童生徒が増えているのが現状であると思うので、学校全体での支援をお願いしたい。</li> <li>・ 現状を把握した適正な指導助手の配置を行ってほしい。</li> </ul>
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援の体制として、医療機関等との連携構築を進めており、生徒一人一人にあった支援ができるようにする。</li> <li>・ 特別支援教育コーディネーターを有効活用し、本事業の充実を図る。</li> <li>・ 指導助手の配置等については、小中学校の適正配置と整合性を図りながら進める。</li> </ul>

## 目 標

時代の要請に即した優秀な人材を育成、確保するため、高等教育環境の整備充実を関係機関に働きかけるとともに、町の奨学資金制度等により意欲ある人材の就学を支援します。

主な施策名	高等教育への支援
事務事業名	奨学生事業
目 的	高い学習意欲をもちながら、経済的理由により就学困難な者に、奨学資金貸付制度を活用し、町の将来を担う優秀な人材を育成する支援を行う。
実施状況	貸付額 専修・短大・大学生30,000円/月、高校・高専生15,000円/月 1 H23貸付者 21名（うち新規貸付者3名）年間貸付額6,390,000円 2 H24貸付者 18名（うち新規貸付者3名）年間貸付額5,535,000円 3 H25貸付者 15名（うち新規貸付者6名）年間貸付額5,040,000円 H25内訳 大学生10名、短大生1名、専門学校生2名、高校生2名 （うち新規貸付 大学生4名、専門学校生2名 計6名）
成果及び課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>奨学資金選考委員会において審議した結果、希望者全員に奨学金を貸付けすることができた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>交渉の成果により滞納額が減少したが、返還金の一部滞納者がおり、連絡が取れない者等、徴収方法に課題が残っている。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>24年度の点検評価の際にご意見のあった、貸付資格範囲（専門学校等）の拡大について、年度内に奨学資金条例の改正手続きが行え、25年度からの貸付に対応できた。</li> </ul>
点検・評価委員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>経済的に就学が困難な家庭の支援のため、継続して欲しい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>交渉の成果により滞納額が減少したのは良いことである。当然ながら借りたものは返さなければならないが、返済しやすい方法も検討すべきである。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>奨学資金貸付けの範囲を、専門学校等にも広げたのは大変良いことである。更なる周知を図られたい。</li> </ul>
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>滞納者については、連帯保証人と十分協議し、返済方法について話し合いを進める。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>町の奨学資金制度の更なる周知に努める。</li> </ul>

## 第4節

## 芸術や文化の豊かなまちづくり

### 1

### 地域文化の育成

#### 目 標

町民の文化活動を促進するため、世代間の連携と活動の展開を図り、文化施設の利用促進と指導者の育成等、町を担う人づくりとその支援のための環境づくりを推進します。伝統文化の保存・伝承に努めるとともに文化財の保護と活用に努めます。

主な施策名	伝統文化の保存・伝承と文化財の保護
事務事業名	町伝統芸能継承支援事業・文化財管理事業
目 的	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 伝統芸能保存団体が、貴重な伝統芸能を継続的に保存している。</li><li>・ 文化財の保存に努め、町の貴重な財産として後世に残す。</li></ul>
実施状況	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 伝統芸能を保存する団体の保存・継承活動に要する経費の一部を助成している。9団体×50,000円=450,000円</li><li>・ 解説看板の修繕 2基 119,700円</li><li>・ 文化遺産管理費補助金378,000円</li><li>・ 那須町文化財整備費等補助金 582,000円</li></ul>
成果及び課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 伝統芸能が脈々と受け継がれているが、今後は後継者不足で継承できない団体が出てくることが想定されることから、小中学校との連携で、伝統芸能に触れる時間を確保することによって若い世代から伝統芸能に親しむことが出来る体制を整備する。</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 町の文化財に関する情報を整理して、町民をはじめ多くの人に町文化財について知ってもらえるようにする。</li></ul>
点検・評価委員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 小中学生に興味を持ってもらえるような伝統芸能に触れる時間を確保して欲しい。</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 町の文化財に関する情報の周知を図ること。</li></ul>
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 小中学校において、伝統芸能に触れる時間を確保することにより後継者育成に努める。</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 町の文化財の重要性を認識してもらえるよう周知に努める。</li></ul>

## 目 標

町民が健康で活気にあふれ、生きがいのある生活が送れるよう生涯スポーツの推進のため、地域住民のニーズに応じたスポーツ・レクリエーションの普及と指導体制の充実や施設の整備に努めます。

主な施策名	スポーツ・レクリエーション活動の推進
事務事業名	那須高原マラソン大会支援事業
目 的	町内外からのランナーが健康増進や親子のふれあい、競技力向上を図る。
実施状況	りんどう湖ファミリー牧場を発着として、ハーフマラソン・2k・3k・5k・10kの24カテゴリーを実施しました。 ・期日：11月24日（日） ・参加者：2,108名（町内851名、町外1,257名）
成果及び課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>年々参加者も増え続け、特色の有る大会となり好評を得ている。ハーフマラソンの導入により、観光誘客や競技力向上につながっているが、交通整理スタッフが不足しており、スタッフの確保や経費の面での安定した財源の確保などの課題を克服していきたい。</li> </ul>
点検・評価委員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>町のイベントの目玉になってきており、町外の人も多く参加しているので、町の予算を確保して継続してほしい。スタッフの確保も周知すれば集まると思うので努力してほしい。</li> </ul>
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>本町では、ボランティア等の協力を頂いているスポーツイベントが幾つかある。そのため、ボランティアスタッフの登録制度を構築していきたい、町民や参加者に愛される大会を目指していきたい。</li> </ul>

主な施策名	スポーツ・レクリエーション活動の推進
事務事業名	那須町レクリエーション大会
目的	子どもから高齢者までスポーツによるまちづくり実現に向け、多種多様な事業の実施。
実施状況	<p>体育の日に、町のレクリエーション大会として開催し、親と子のソフトバレーボール大会、成人によるさいかつぼーる大会、子供から高齢者までを対象としたスナッグゴルフ体験会の3種目を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親と子のソフトバレーボール大会（28チーム274名）</li> <li>・さいかつぼーる大会（4チーム27名）</li> <li>・スナッグゴルフ体験会（20名）</li> </ul>
成果及び課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親と子のソフトバレーボール（274名参加）への大規模校からの参加児童が少ないので、教員等を通じて多くの児童・保護者に参加を促す必要がある。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さいかつぼーるの参加チーム数が、平成25年度で4チーム（27名参加）と少ないので、成人への参加を促す必要がある。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成25年度は、体験会としてスナッグゴルフ（20名参加）を行ったが、まずは幅広い年代の方に慣れ親しんでもらい、ゴルフ人口の底辺拡大を図る。</li> </ul>
点検・評価委員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さいかつぼーるやスナッグゴルフは競技自体の認知度が低いので、十分な周知をすれば参加チーム数が増えるのではないか。また、各公民館の大会や4公民館の事業でも取り入れてはどうか。</li> </ul>
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さいかつぼーる及びスナッグゴルフについては、今後ともニュースポーツとして、各出前教室や公民館事業へ取り入れていただけるよう働きかけをしていき、レクリエーション大会がそれらの目標となるような大会としていきたい。</li> </ul>

主な施策名	スポーツ施設の整備
事務事業名	総合運動公園基本構想策定
目的	生涯スポーツの核となり、スポーツを通して町の振興にもつなげる総合運動公園の基本構想を策定する。
実施状況	那須町総合運動公園基本構想策定委員会の開催 6回 委員数14名 1 基本構想の報告書の策定を行いました。
成果及び課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合運動公園は、スポーツの振興だけでなく本町観光振興の核となる施設を目指す必要があるため基本構想はその趣旨に沿った形で策定した。</li> <li>今後、整備にあたっては事業費、維持管理費が高額となるため、国庫補助等の財源確保等、町の財政負担の軽減を検討する必要がある。</li> </ul>
点検・評価委員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>近隣市町にも立派な運動公園がある。町の財政も大変厳しいと思うが町民のコンセンサスを得ながら長期展望を検討して、出来るだけ早く整備してほしい。</li> </ul>
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後、整備にかかる基本計画を策定し具体的な計画を詳細に検討するにあたり、長期展望を十分に勘案し町にとって有益な施設となるようパブリックコメント等を取り入れながら進める。</li> <li>また財政面では町の負担軽減が図れるよう十分に協議検討する。</li> </ul>